

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年 1月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200496		
法人名	トータル・メディカル津沢㈱		
事業所名	グループホームひだまり御車山		
所在地	高岡市木津675-1		
自己評価作成日	平成30年12月28日	評価結果市町村受理日	平成31年2月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成31年1月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの個性や能力にあったケアを心がけその人のペースを維持して生活できるようにしています。家族や友人、地域住民の来訪も多くなるように信頼関係の構築や来訪しやすい環境の整備にも努めています。医療との連携も医師や看護師とも情報共有しやすいように連絡や情報交換も密に行っています。利用者様の「笑顔」を大切に「此処に来てよかった」と言ってもらえるように日々のケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

車椅子の利用者にも配慮した機械特殊浴が備えられている。また、各ユニットのホールは明るくて広く、利用者がゆったりと過ごせる空間が確保されている。事業所の協力医のほか、複数のかかりつけ医の往診が実施されており、利用者や家族が安心できる医療体制が取られている。看取りについては、利用者や家族の思いを大切にされた支援に努めている。職員は仕事に生きがいを持ち生き生きとケアに取り組んでいる。地域が主催する行事には積極的に参加するなど地域との交流に努めている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

グループホームひだまり御車山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を玄関に掲示し、全職員が意識するようにしている。事業所独自では申し送り時などに職員が唱和してから仕事を開始している。	法人共有の理念及び基本方針に基づき、事業所独自にケアに必要な項目を全職員で確認し実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のいきいきサロンへの参加や御神輿祭りの際に休憩場所として協力している。避難訓練等にも住民の皆様に参加して頂いた。地域から花を購入し一緒に花壇に植えたりもしている。	地域が主催する祭りや奉仕活動には積極的に参加している。また、地域と合同での防災訓練や花壇作りを行うなど地域との交流に努めている。	近隣の小学校や保育園への働きかけを行い、子供たちが気軽に事業所へ来訪し、歌や遊戯などで利用者を楽しませてもらうなど、更なる地域との交流を深められることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症予防対策の笑いヨガや、認知症の方々が住む地域作りなどの活動への参加や講演の依頼を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	食事内容についての意見交換では有意義な意見を頂き実践し報告している。家族様からの意見をくみ取り、地域からの要望やこちらからの提案など活発な場として取り組んでいる。	自治会長、民生委員、社協役員、地域福祉委員、地域包括支援センター職員及び家族代表が、メンバーとなり、2ヶ月に一度開催し、事業所の近況や外部評価などについて話し合っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや郵便で通達事項や研修案内を頂いている。疑問や質問事項がある場合はその都度電話で担当者にお問い合わせたり、直接出向いて指導を受けている。	高岡市の介護課を窓口に、法律の改正点や事業所の運営などについて相談をして適宜アドバイスを得ている。市が主催する研修会などにも積極的に参加し意見交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束しないケアに取り組んでいる。社内でも研修項目として、法人全体で拘束ゼロに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会も設立し活動している。</p>	<p>法人内に身体拘束廃止委員会を設立し、各事業所のユニット主任クラスが参加しての定期的な研修会を実施している。研修内容については各事業所に持ち帰り、それぞれが内部勉強会を行って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>業務優先にせず利用者を優先し尊厳の保持に努めている。研修会でも虐待について勉強している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在1名の利用者様が成年後見制度を利用している。また状況により、権利擁護に関する情報をその都度提供している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込みの段階から家族への説明や質問を受け付けている。契約書や重要事項説明書は必ず読み上げ説明し理解していただいたか確認している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時には近況報告をして要望の確認や意見を頂いている。毎月利用者様の状況を職員が手書きの手紙として情報提供している。運営推進会議にて家族からの意見を聞き様式変更や聞きたい事項等も確認している。</p>	<p>家族の面会時や運営推進会議において意見・要望を聞いている。出されたものは、ミーティング時に職員間で話し合い対応を図っているほか、重要なものは管理者会議にも報告し運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットごとにミーティングを開催し、管理者会議にて経営者に伝えるようにしている。法人本部からも意見を求められる時があり意見している。	職員からの意見は、日々の実践の中でや月例ミーティングで聞いている。出されたものは職員間で話し合い運営に反映させている。なお、重要なものは代表にも話をして、判断を仰いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2度の人事考課を実施している。また、働ける時間や勤務先なども本人の希望が優先されるように配置されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的に毎月社内研修は開催されている。口腔ケア研修も単独で毎月開催されている。社外研修への参加の機会は会社も推奨し、金銭面での助成もあるが、希望通りに受講できないときがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	弊社内でのグループホーム主任が各施設を見学し、意見交換している。年6回グループホームでの研修会が行われている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時や随時本人から話を聞き安心して生活してもらえるようにしている。ソーシャルワーカーやケアマネージャーからも情報を頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からも詳細部まで話を聞くようにしている。家族から信頼を得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要とされることや、希望されることを、なるべく一緒に話し合い決定していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の想いを汲み取れるように関わり、出来ることを提供し、傍に寄り添い、共に生活していると感じて頂けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を綿密にするようにし、面会や外出などの機会を多くもって頂く様に心がけている。居室で共に時間を過ごして頂けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	来訪依頼をしたり、次回に繋がるように丁寧に対応するよう心掛けている。	利用者の馴染みの関係はフェースシートに記入し管理している。知人の来訪時の支援や年賀状を出す支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士での人間関係の構築ができるように雰囲気作りに心がけている。必要がある場合は職員が仲介に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了以降も来訪して頂けるように心がけており、相談や助言等を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	応えられる要望には常時応えられるようにしているが、応えられないことに対しては、職員、家族と相談しながら対応策を考えている。	日々の関わりの中で、本心なのか遠慮なのかなど、一人ひとりの思いや意向を、会話や表情、仕草などから把握している。その際には、職員の思い込みが生じないように、職員間で本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや家族からの情報、本人から聞き取りをして情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時間によって変化する利用者の状態を見極めるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から意見を聞き、カンファレンス等で情報を収集して作成している。医師や関係者からアドバイスを頂く時もある。	ミーティングの際のベースとなる個人記録の様式を変更し、職員が利用者のニーズと対応方法を考えながら記録し、また、家族には、書面に要望を記入してもらうなど、介護計画とモニタリングをチームで行うよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に変化を記入し情報共有できるようにしている。毎日の申し送りやカンファレンスで共有できるようにもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自立支援に向けて状態変化に対応する様にしている。他のサービスの情報も提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物などに同行したりしている。地域での行事参加もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族と相談の上、かかりつけ医の継続や変更をしている。連携に心がけ、迅速な対応が出来るように努めている。	それぞれのかかりつけ医による往診や家族付き添いによる受診など、利用者や家族の希望に沿って、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の情報を提供し、共有するように心がけている。異常時には必要な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なるべく面会に行くようにして、その都度状況を病院から得られるように努めている。退院後も対応できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向を基本に、主治医や看護師と相談し決定するようにしている。	「ここで最期を迎えたい、迎えさせたい」など、今までの暮らしの延長線上にある本人や家族の思いを尊重し、かかりつけ医の所見やバックアップ体制などを確認した上で、今後の方針を共有し、支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練は定期的に行っていない。実践力を身につけられる訓練が今後必要と考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民と協同した避難訓練を実施した。災害状況によっては避難方法も変わるが、地域一体での協力体制作りを目指している。	課題としていた地域住民と協力しての合同避難訓練を実施することができた。また、水害については、行政から情報を収集し、避難先の確認を終えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や性格を考慮し、その方にあった声掛けや関わりを持つ様になっている。尊厳を保持されるような声掛けに心がけている。	利用者の「尊厳の保持」を理念の一つに掲げ、一人ひとりの利用者の人格を尊重した対応に努めている。不適切と思われる対応があれば、管理者はその背景を鑑み、職員の思いを聞きながら改善につなげる指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体調や状況に合わせて、本人にオープンクエスチョンでの問いかけに心がけている。コミュニケーション困難な時は時間をかけ聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の過ごし方を職員が把握し、本人のペースにあった過ごし方が出来るよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪をとかしたり、髭剃りの声掛けをしている。服や化粧品の購入と一緒に買い物に行ったりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いたりして献立を変更したりしている。材料切から調理、配膳まで、利用者と一緒にするように心がけている。	キャベツの千切りなど、利用者の得意なことを手伝ってもらっている。また、いただいた地元の木津大根を使い、利用者からのぶり大根の希望に応えるなど、食事が楽しくなるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じた食事形態、食事量を提供し、トロミ使用や好みに合わせた水分を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。舌苔ブラシなども使用し口腔内清潔保持に努め、異常の早期発見や予防に心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しその方に応じた対応をするようにし、気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。	安易におむつに頼らないよう、安全のため、職員二人で介助したり、本人の自尊心に配慮した声かけなどを行って、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの提供や体操などを取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は職員都合になってしまいが、気持ちよく入浴して頂けるように心がけている。	「入浴することを朝一番に知らせてほしい」など、一人ひとりの思いに応え、各々のペースでゆったりとした気分で入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握するように心がけ、体調に応じて休息して頂いたり、良眠できるような環境整備を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に状態報告し、薬の増減など変化に留意している。薬剤情報の共有や服薬確認徹底などもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ご本人の出来ることを提供できるように努めている。全体として誕生会なども提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりでの対応が職員数で困難な状態である。全体として、ドライブや散歩など、機会を増やせるように努めている。	天候を見て事業所の周りを散歩したり、買い物などに出かけている。また、事業所の畑に出て、野菜を収穫するなど、外に出る機会をつくるよう努めているが、一人ひとりに対する支援や楽しみごとのお出かけが少ない状況にある。	今後は、利用者一人ひとりのその日の希望に沿った外出支援や、普段は行けないような所にも、家族と協力しながら出かけられるよう支援することが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態に合わせて所持している。一緒に買い物に行く機会も作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方もいるが、家族の負担も考慮し、時間をずらしたりして職員が仲介する時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中でも暗い場所は明りをつけたり、日差しはカーテンで調整するようにしている。壁には季節の飾りものなどして環境整備に心がけている。	玄関には、色鮮やかなお花のリースを飾ったり、リビングには、行事の際の笑顔あふれる写真などを貼り出し、明るい雰囲気をつくっている。また、エアコンや加湿器などを使って、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやテレビなどの位置から座席位置などそれぞれの人間関係も配慮しながら工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのものや慣れ親しんだものを使って頂くように心がけている。	自宅で飾っていた置物や好きな本などを持ち込んでもらっているまた、家具の配置など、利用者の転倒防止に留意し、安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、本人の出来ることが生かせるような、また目印をつけたりして安全な環境になるように工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり御車山
作成日 平成31年 2月 4日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	現在グループホームの活動として、地域の行事等の参加や協力を行っている。しかしながら地域の一員として日常的に参加ができているとは言えない。	住み慣れた地域の中で、利用者一人ひとりが、地域の一員としての役割を持ちながらグループホームでの生活が送れる。	※近隣の小学校、保育園にグループホームに、児童が訪問できる行事を提案していく。 ※小学校、保育園に利用者が参加できる行事はないか、協力できることはないか定期的に担当者に連絡し情報交換を行っていく。	1年間
2	49	グループホームも開所し4年目を迎えました。日々を重ねるとともに歩行機能の低下、認知症の進行が顕著になってきて、これまでのように気軽に外出できなくなっているのが現状です。	外出やドライブ、買い物、馴染みの場所等へ出かける。利用者の気分転換やストレス軽減を図りグループホームでの生活にたのしみが持てるよう支援していく。	※利用者一人ひとりのニーズの把握に努める。 ※家族の協力が得られるよう、密に情報交換していく。 ※具体的に計画を作成しボランティアや地域の協力を得ていく。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホームひだまり御車山